オランダ、ベルギー、
ルクセンブルグ

ACTIVEなオランダ
ARTなベルギー
RICHなルクセンブルク

アムステルダムは活発で、汚いし、うるさいし、自転車が怖い
でも田舎の町は歴史ある中心をもち、家は小ぶりでもきれい

ブリュッセルにはアールヌーボーがあり、グランプラスがある贅沢
グランプラスのプロジェクションマッピングは光が踊るだけで十分

ルクセンブルクは小国の強みで豊かで華麗な暮らしをみせる
世界遺産の旧市街は国の原型となった要塞そのもので絵になる

ベネルクスで夏休み

2014.8.4-13

Musleワイン蒸しに喜ぶ峰子

多すぎるパンに戸惑う雄三

ベネルクスとは、ベルギー、ネーデルランド（オランダ）、ルクセンブルクの頭文字を足したもの。2014年の夏休みはその３国を旅した。既にオランダ、ベルギーには幾度か訪れて、デルフト、デンハーグ、アントワープ、ゲント、ブルージュを堪能していた。なので、今回はオランダではホールンとエンクハウゼン、そして私が大好きなチーズの町ゴーダ。ベルギーではルクセンブルクに行く途中でナミュールを散歩した。

・アムステルダムはいつものように人が多くて、うるさくて、汚いのに、田舎町は歴史のある中心をもちながら、小さくも綺麗な住宅街に囲まれて、オランダの豊かな暮らしぶりをみせていた。

・ブリュッセルに入るとアムスより静かでホッとしながら、ちょっとトラムに乗ればオルタの家があり、ちょっと歩けばグランプラスがあって、アムステルダムがゴッホもレンブラントもフェルメールも美術館の中…とは違った贅沢な観光を味合わせる。グランプラスのプロジェクションマッピングは簡素だが、四方を囲った豪華な建築があれば、手の込んだCGなど不要。建物の飾りが表情を表して、宮廷時代を覗かせる。

・ナミュールはブルージュやゲントに比べれば確かに小粒だが、ルクセンブルクへの途中下車の旅とすれば充実度は大きい。まず駅前から3番のバスでシタデル（要塞）まで登り、絶景の散歩道を下ることの喜び。駅まで30分も掛からないが、商店街に捕まって時間が過ぎる。この旅行で3つ目の眼鏡を買ってしまった。

・そして初めてのルクセンブルク。これが期待以上の面白さ。というより、侮っていた。小さい強みでRichに暮らす、その知恵と勇気と実行力に、中途半端に大きく、偽Richな生活をしている自分が恥ずかしい。

ベネルクスの歴史

歴史はシーザーの時代に遡り、「水に囲まれた低地に盛土をして暮らしていた」という。低地を意味する言葉からネーデルランドと呼ばれるようになったが、その頃は3国に区分はなかった。その後、欧州らしくめまぐるしく支配者が移り変わり、3国はそれぞれに分かれ、大きな力に支配され、またお互い同士で支配される。いずれドイツ、フランス、イギリスという列強に囲まれた不安定な存在にあった3国。
それでも、13世紀には土地の２割を干拓していたアクティブなオランダはアジアへの植民で繁栄し、ベルギーはバイキング起源のフランデルン家がブルージュで繁栄し、その後ブルゴーニュ公国がブリュッセルに宮廷を置いて芸術を開花させた。そしてルクセンブルクは現代に至り、小国ながら鉄鋼で世界一となる工業国に発展し、今では金融で稼いで、EU内で確固たる金融センターの位置をつくった。

ルクセンブルク

この国はほんとに小さい。バチカンが小さいのはわかるが、まともな国としてこんなに小さな国は初めての体験。まず、新市街にある駅から旧市街の奥にあるホテルまで歩いてみたが20分と掛からない。これでほとんどルクセンブルクが入ってしまう。ヨーロッパの田舎町くらいの規模でしかない。果たしてこれで国の形が取れるのか？
歴史は1963年、アルデンヌ家が城を築いたことに始まる。その当時、砦を小さな城（lucilinburhuc）と呼び、これが変化してLuxemburgとなった。
ローマ帝国時代から街道が交わる重要拠点として栄え、それを妬む近隣諸国から幾度も攻め込まれるが、自然の要塞は強く、これを阻んだ。難攻不落の要塞それ自身が今の旧市街を形成している。要塞一つと周辺の自然でルクセンブルクがあり、その大きさは神奈川県ほどの広さで、人口はたったの48万人強（神奈川県は870万人）。
アルデンヌ家の分家である**ルクセンブルク家**に伯爵位が与えられると、14～15世紀には当家から神聖ローマ皇帝やボヘミア王を排出した。1461年にはハプスブルク家領となってスペインやオーストリアに支配され、フランス革命期にはフランスの支配を、その後にドイツ連邦に加盟しながら、オランダ国王を大公とするルクセンブルグ大公国になる…という、欧州らしい波乱の歴史。スイスと同じように永世中立国となるが、第二次大戦では連合国に加担。ドイツに占領された。その後は1949年にNATOに加盟して永世中立を放棄し、陸軍のみの4個中隊、約450名の兵士がいて、欧州合同軍に組み込まれているという。小さいからNATOに頼り、頼るから兵を出す。小さい国の防衛の一つの形。集団自衛権でもめる日本と違った潔さがみえる。

国内産業は大別して重工業と金融。鉄鋼世界一だったアルセロールがあって、金融ではスイスに匹敵するプライベート･バンキングの中心地でもある。金正日の隠し財産の大半もルクセンブルクの銀行に預けられていたという。
また、欧州投資銀行など、ユーロ圏における金融センターとして不動の地位をつくり、労働人口の1/5が働いている。また、税率が低いことから、スカイプ社、Apple社（欧州本社）など数多くのネット関連企業が本社機能を移転している。
世界最高水準の豊かさはこうした産業に基づくが、「一人当たりのGDB」で21世紀以降世界首位を維持。「一人当たり国民総所得（GNI）」では世界４位だが、購買力平価ベースでは世界首位（2009）。国内の所得格差は北欧諸国並みに小さい。
移民を伝統的に受け入れ、人口の約40%（2005）という世界的にも希な移民の割合。失業率は多くとも4%台で推移（ユーロ圏平均7%）、国内の所得格差も小さい

・・・ということで、小さくともRichで強い国。人々もギスギスした雰囲気はなくて余裕の笑顔。ショッピング街も充実し、通りには汚れがない。旧市街は崖の上にあり、崖沿いの散歩道は歴史をみせて美しく、眼下の屋根が連なる家並みにみとれてしまう。名物のアーチ橋を電車が通過すれば歓声が上がって、スケッチする人間にとっては丸1日楽しめるスポットの連続。スケッチするなら2泊、観光なら1泊で、充実した、快適な旅行が味わえる。ホテルは五つ星のル・ロイヤルに泊まったが素晴らしく、そして安い。ブリュッセルからルクセンブルクまではICで3時間。綺麗な農村風景をみながらだとあっという間。二等で予約席はないが、余裕で座れて快適。

spot

アムステルダムのアルゼンチンステーキは絶品
なんでも女王陛下がアルゼンチン出身の縁で…

移動はもっぱら都市間快速鉄道ＩＣを利用
二等列車に乗りローカルな雰囲気を味わう

ナミュールの要塞から下る絶景の散歩道。
家族三人で景色を楽しむ後ろ姿に惚れ惚れ

ルクセンブルクの五つ星ホテル・ル・ロイヤル。素晴らしく、しかも安い。レストランのステーキが絶品。ワインはマルゴー。

旧市街のShop街をカラフルな傘で飾りつけ。
そのせいか雨が降った。飾りの傘は役立たず。